

# PMI 日本支部 ニュースレター



Column/組織 .....	3
Activities/支部活動 .....	7
Best Practice and Competence/PM事例・知識 ...	9
PM Calendar/PMカレンダー .....	12
Fact Database/データベース .....	13
Editor's Note/編集後記 .....	17

## Column / 組織

- ◆会長就任のご挨拶 ..... 3  
PMI日本支部 会長 片江 有利
- ◆新任理事ご挨拶 ..... 4  
PMI日本支部 理事 広報担当 富岡 洋子  
PMI日本支部 理事 組織拡大、コミュニティ活性化担当 藤井 新吾  
PMI日本支部 理事 システム、イベント、PMコミュニティ活性化担当 松本 弘明  
PMI日本支部 理事 地域サービス、コミュニティ活性化担当 山本 智子

## Activities / 支部活動

- ◆PMI日本支部を支えるPMIアジアパシフィックのご紹介 ..... 7  
• Region 9のサポート部隊（在 シンガポール）  
Region 9 チャプター・パートナー シティ・ロズィアンティ

## Best Practice and Competence / PM事例・知識

- ◆私のブレイクスルー体験 ..... 9  
• マレーシア工科大学でのPh.D.研究プロジェクトについて  
NPOバリューチェーンプロセス協議会 研究員、Ph.D. (マレーシア工科大学)、PMP® 駒井 忍

## PM Calendar / PMカレンダー ..... 12

- PMI日本支部関連セミナー等

## Fact Database / データベース ..... 13

## Editor's Note / 編集後記 ..... 17

## ◆商標等について

「PMI Project Management Institute」とそのロゴおよび「PMP」、「CAPM」、「PMBOK」、「OPM3」、「Quarter Globe Design」は、米国および他の国で登録されているプロジェクトマネジメント協会のマークであり商標です。プロジェクトマネジメント協会のマークの対象リストについては、プロジェクトマネジメント協会の法務部門へお問い合わせください。「ITIL® (IT Infrastructure Library)」は、英国及び欧州連合各国における英国政府 Cabinet Officeの商標又は登録商標です。

# Column / 組織

## 会長就任のご挨拶



PMI日本支部 会長  
片江 有利

PMI日本支部会長に今年度就任いたしました片江有利です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

PMI日本支部では、昨年の理事改選で理事を増員し、担当の兼務等役割分担の見直しを行い、中期期計画並びに年間計画を実行すべく新体制を立ち上げました。

その矢先、残念ながら新型コロナウイルスへの対応で、まず3月のイベントの中止、委員会・部会の活動についてはリモート開催を原則とさせていただきました。しかし、パンデミック宣言がなされ世界では30万名を超える感染者を数え、いまだ終息の気配は見えていません。日本におきましても、大都市圏の患者増加は終息せず、大規模イベント自粛の要請が継続しております。現状におきましては4月同様の措置を継続せざるを得ないと考えております。

現在日本支部として危機管理プロジェクトを会長直下で立ち上げ、リスクマネジメント計画や予算の見直し、各種イベ

ントのリモート開催への代替等の検討を総合的に検討しております。PMI本部も同様に危機管理タスクフォースを立ち上げ、イベントの延期、職員の在宅勤務、出張自粛と手が打たれ、R9&R15ミーティングの延期、EMEAのリモート開催、PMP®試験の変更期日を2020年7月1日から2021年1月2日への延期と、次々に決定されています。

会員の皆様方には何かとご不便をおかけする点あるかと思いますが、日本支部として最大限皆様方の期待に応えられるよう対応を進めてまいりたいと考えております。

このような中、3月3日に予定しておりましたDAセミナーは一旦中止を決定いたしました。短期間で満席となったことに鑑み、PMI本部とリモート開催を交渉し、3月14日(土)の10時から実施することができました。結果的に当初の参加予定者の倍の皆様々にセミナーを聴講していただくことができました。この取り組みはPMI本部のCEO Sunil氏から「困難な状況下での、アジャイルで素晴らしい取り組みの先例である」とのメールをいただきました。支部としては、これを契機に各種セミナーのリモート開催等を柔軟に実施できる環境整備を整えサービス向上に努めてまいります。

PMI日本支部、PMIともに今年度計画していることが変更を余儀なくされる状況下ではありますが、理事、事務局一同がプロジェクトマネジメントの変化を的確にとらえて発信できるよう全力で取り組んでまいり所存ですので、どうか引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 新任理事ご挨拶



広報担当  
**富岡 洋子** (とみおか ようこ)  
株式会社NTTデータユニバーシティ

皆さま、初めまして。この度、新たに理事に就任した富岡です。

現在、NTTデータユニバーシティという人材開発会社にて、人と組織のパフォーマンス向上をミッションとした事業に携わっています。キャリアとしては、人材開発に加えて、長年、企業広報に関わってきました。このようなバックグラウンドから、PMコミュニティ活性化委員会メンバーの役割に加えて、理事会では初の設置となる「広報担当」というミッションを拝命しています。

さて、「広報」といえば、皆さんは、どのようなことを想像しますか？ニュースリリースを書いて新聞記者と応対するようなことでしょうか。あるいは社内向けのメッセージづくりや情報発信、場合によっては広告宣伝の仕事をイメージする方もいるかもしれません。正直、どんなことをやるのか、

想像がつきづらいのではないのでしょうか。

「広報」は、英語では「Public Relations」となります。その定義はさまざまですが、日本では、公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会が以下のように述べていることが参考になります。

「パブリックリレーションズは、ステークホルダーおよび社会との間で健全な価値観を形成し、継続的に信頼関係を築くための活動である。その中心となるものは、相互理解と合意形成、信頼関係を深めるためのコミュニケーションである。」

理解・合意・信頼を深めるためのコミュニケーション。普段、皆さんが行っていることそのものではないのでしょうか。実は、広報活動は特別なものではありません。PMI日本支部の皆さん一人ひとりが、まさに広報パーソンでもあるといえるのです。

PMI日本支部には、すでにウェブやSNS類のツールが装備されており、各委員会や部会・研究会でも様々な発信がされています。そうした活動を支えるべく、広報担当がどのように機能できるか、広くお声を伺いつつ知恵を絞っていきたいと思います。ぜひ、いろいろなご意見をお聞かせください。どうぞよろしくお願いいたします。



組織拡大、  
コミュニティ活性化担当  
**藤井 新吾** (ふじい しんご)  
(前 ソーシャルPM研究会代表)  
モバイルコンピューティング推進コン  
ソーシアム  
人材育成委員会 主査

本年より組織拡大とコミュニティ活性化の担当理事として就任させていただきました藤井新吾です。支部活動に関しては、これまで組織・社会へ「プロジェクトマネジメントの有用性」を伝える活動を中心に行っており、直近の3年間はソーシャルPM研究会の代表を務めさせていただきました。今やプロジェクト活動は社会のさまざまな領域で実践され、政

府機関や産業界のみならず、社会問題に取り組む非営利組織などでもその実践領域は広がっております。また、そこで活躍する個人が属するセグメント（世代、PM経験、支部会員、見込み会員、非会員、関心事など）に特徴づけられた異なるニーズに応じた将来価値を実現していくためにも、プロジェクトマネジメントの有用性が求められつつあります。

そこで、昨年からは、組織拡大委員会の活動として、内閣府の地方創生SDGs官民連携プラットフォームに、SDGsスタートアップ研究分科会を立ち上げ、20以上の団体（企業・自治体・NPOなど）に参加いただきました。また、国土館大学経営学部で、ソーシャルプロジェクトマネジメント（秋季15回）の講座も開設し「プロジェクトマネジメントの有用性」を他団体へ伝える機会に恵まれました。

## Column / 新任理事ご挨拶

そうした状況の中、支部としても他団体連携（主催・共催・後援・協力）の制度立ち上げ、運営、及び施策の検討を進め具体化して行き、支部会員増強、法人スポンサーの拡大に貢献したいと思っています。

また、組織拡大が支部の外に向けた活動とすれば、支部の中に向けた活動が、コミュニティ活性化です。各部会の活発

な活動の実現を支援するため、各部会が必要とする支援のニーズを把握し、組織拡大委員会での内閣府の活動で養った「ボランティア活動スタートアップモデル」などを活かし、体系的な運営モデルと、より一層の部会間や外部団体との連携機会創出を行いたいと思います。



### システム、イベント、 PMコミュニティ活性化担当

**松本 弘明** (まつもと ひろあき)

(元 セミナープログラム代表)  
株式会社オプティム  
技術統括本部 プラットフォーム事業部  
ゼネラルマネージャー

今年より新任理事となりました松本弘明です。私はシステムの主担当として、また、イベントとPMコミュニティ活性化については担当として2年間活動していきます。

2007年に支部会員になり、セミナープログラムで約12年、PMO研究会で3年、PMコミュニティ活性化委員会で5年間活動してきました。

セミナープログラムでは、過去数回代表を務め大小さまざまなセミナーイベントを企画・運営してきました。また、PMコミュニティ活性化委員会では、部会リーダ交流会の立ち上げ、部会で利用しているITツール、グループウェア移行推進などを行ってきました。

今後はシステム主担当理事として、過去の部会活動と本業

の経験を活かし、5,000人を超える日本支部会員、ステークホルダー周辺のシステム刷新を進めていきます。リモートセミナー導入や、コミュニティ活性化のためのITツール導入、イベント申し込みシステムの刷新などにより、会員へのサービスを拡充していきます。

初年度は、全体計画の立案と変更可能なシステムの移行を進め、翌年は具体的な施策実施に向け、新たな組織の立ち上げも計画しています。

イベント担当としては、関東圏に集中する各種イベントの地方へのリモートセミナー（同時配信）やインタラクティブなセミナーなどITツールを駆使したイベントの開催を推進します。

PMコミュニティ活性化担当としては、各部会への情報発信強化、情報集約、コラボレーションができる仕組みの提供を考えています。また、物理的な場所や時間の制約を受けないオンラインコミュニティ活動のサポートを行うことで、より多くの会員が参加しやすい環境を整えていきたいとも考えています。



### 地域サービス、 コミュニティ活性化担当

**山本 智子** (やまもと ともこ)

川崎医療福祉大学  
医療福祉マネジメント学部教授

今年より新理事を拝命しました山本智子と申します。

私は、大学病院勤務を経て、医療福祉系の大学で、医療秘書という医療現場の秘書職やマネジメント業務に携わる病院

事務系職員の育成教育に約40年間携わっています。

PMIについては2013年にその存在を知り、関西ブランチ医療プロジェクトマネジメント研究会で医療の世界にこの国際標準メソッドの導入を研究されていることを知りました。そして、2014年から本学の医療秘書教育の段取りマネジメント領域にPMBOK®の一部を導入するとともに、2015年からPMI日本支部アカデミック・スポンサーの登録が認定されました。

PMI活動としては、2015年からPMI日本フォーラムに参加するとともに、アカデミックトラックでの発表や、関西ブ

## Column / 新任理事ご挨拶

ランチの医療プロジェクトマネジメント研究会で活動しています。

医療現場は、ますます高度化、多様化してきており、高度なチーム医療がなされていて、まさに多くの医療プロジェクトが実行されています。また、医療プロジェクトマネジメント研究会が医療組織と学校組織を比較した結果から、2017年に教育現場にも国際標準メソッドが役立つことを紹介したことにより、PMBOK®が高校、大学の教育現場から注目されています。以上のような経緯から、PMI日本支部の活動が、

より良い医療や教育の提供につながるのではないかと考えています。

また、私は岡山県に在住しているため、首都圏や関西圏での支部の活動に参加しづらいことがありました。どこにいても参加しやすい活動機会が増えれば、ますます支部の活動が活発になるのではないかと考えています。

これらの普及や改善に役立つよう、微力ながら支部の活動に尽力したいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

# Activities / 支部活動

## PMI日本支部を支えるPMIアジアパシフィックのご紹介

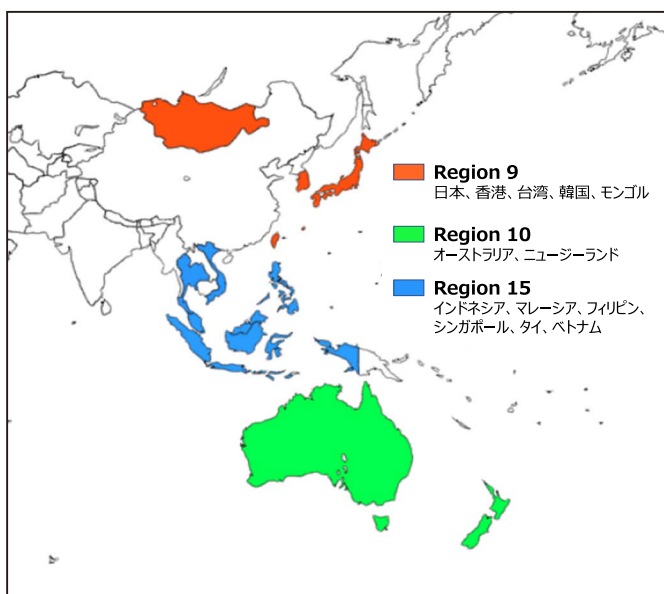
### ■ Region 9のサポート部隊 (在シンガポール)

#### ■ PMI日本支部とRegion 9

PMI日本支部は、世界中にあるPMIの支部の中でもとりわけ重要な存在です。会員数はアジア太平洋地域の支部の中で最も多く、世界で300以上ある支部の中でもトップ10に入っています。

日本支部はアジア太平洋地域のなかで、北東アジアの「Region 9」の一組織として位置づけられています。Region 9には、日本支部のほかに香港・モンゴル・韓国・台湾の4支部があります。これら5つの支部は地理的に近いこともあり各支部で協力し合うことが求められています。この点に関して、各支部主催の主要イベントや定期的なリージョンミーティングを通して支援し合うなど、Region 9の活動は極めて望ましい状態にあります。

図 PMIアジアパシフィックに所属する3つのリージョン



#### Region 9 チャプター・パートナー シティ・ロズィアンティ

#### ■ Region 9を担当する職員の紹介

日本支部の皆さま、こんにちは。シティ・ロズィアンティです。PMIのRegion 9担当のチャプター・パートナーです。私の任務は、各支部のビジネス・プランニングについてPMIの戦略と整合性を図ること、PMIとして我々が同じ方向に向かって仕事をしていることを確認することです。支部活動を支援するために私と一緒に働いているのが、Region 9のメンターであるダニー・チュンとチャプター・アドミニストレータであるリー・シンインです。



長年にわたりPMIでボランティア活動をしているダニーは、リージョン・メンターとしてチャプター・リーダー(日本支部では理事に相当)に助言するほか、リージョン内の協力促進を支援しています。また、PMIのポリシーとプログラムについて、ボランティアの目線でPMIに対して進言も行っています。ダニーはリージョン・メンターとしてはまだ一年目ですが、数々の支部で10年以上の間ボランティアを経験してきた彼が、その経験を生かしてくれるであろうことを楽しみにしています。



チャプター・アドミニストレータとしてのシンインの役割は、各支部の日常業務、例えばPMIの膨大なデータ類へのアクセス方法についての質問に答えること、各支部でのコンプライアンスとガバナンスの分野におけるサポートなどを主に担当しています。彼女の働きによって、会員に最大限の価値をもたらすためのリソースの円滑な活用が可能となるとともに、各支



## Activities / 支部活動

## ■ PMI日本支部を支えるPMIアジアパシフィックのご紹介

部活動のPMIポリシーとの整合性が確保されています。

日本支部が発足22年目を迎え、ますます成長し続けている中、日本支部とともに仕事ができることを大変うれしく

思っています。日本のプロジェクトマネジメント・コミュニティの皆さまが、プロジェクトマネジメント関連情報の重要な発信源である日本支部を将来にわたり支援し続けてくれることを望んで止みません。

The Japan Chapter is one of the world's leading chapters – it is the largest chapter in Asia Pacific, as well as one top 10 chapters in the world. And with over 300 PMI chapters established worldwide, that is indeed a huge accomplishment.

Within Asia Pacific, Japan Chapter is part of Region, Northeast Asia. Other chapters in this region includes Hong Kong Chapter, Mongolia Chapter, South Korea Chapter and Taipei, Taiwan Chapter. Besides just grouping based on locations, chapters within a region are encouraged to collaborate and our Region 9 chapters does this well by supporting each other at major chapter events as well as through regular Region Meetings organized by PMI.

Hello Japan Chapter members! My name is Siti Rozianti, and I work with PMI HQ as a Chapter Partner for Region 9. My role is to support chapters with their business planning and strategic alignment to PMI, ensuring that we are all heading in the same direction. Working together with me to support Japan Chapter is Danny Chung, Region Mentor and Lee Xing Ying, Chapter Administrator.

As a Region Mentor, Danny is a senior PMI volunteer whose role is to provide mentoring to chapter leaders, facilitate regional collaboration, and provide PMI with the volunteer perspective for PMI policies and programs. This is Danny's first year as Region Mentor and we are excited that he is bringing his experience of over 10 years volunteering with various PMI chapters in support of the region.

Xing Ying's role as Chapter Administrator focuses on supporting a chapter's day to day operations such as with access to PMI systems, as well as in areas of compliance and governance. This ensures that the chapter stays aligned with PMI policies as well as has access to all of the resources to provide members with maximum value.

We in PMI are very excited to work with Japan Chapter as it continues to grow and excel in its 22nd year as a chapter. The chapter has established itself as an important source of Japanese Project Management information and I hope that the project management community in Japan would continue supporting them now and in the future.



# Best Practice and Competence/ PM 事例・知識

当コーナーは「私のブレークスルー体験」と題して、先輩PMに現場で苦勞のすえ習得した貴重な体験をご紹介いただき、若手PMの参考にさせていただくシリーズです。

## 私のブレークスルー体験

### ■ マレーシア工科大学でのPh.D.研究プロジェクトについて

NPOバリューチェーンプロセス協議会 研究員、Ph.D. (マレーシア工科大学)、PMP® 駒井 忍

マレーシア工科大学でのPh.D.プロジェクト開始までに経緯については、2013年12月号p30で報告させていただきました。

[https://www.pmi-japan.org/newsletter/pdf/NLvol57\\_final.pdf](https://www.pmi-japan.org/newsletter/pdf/NLvol57_final.pdf)

前回は、40年間IT業界で過ごしてきた実践家の私が定年退職を機にアカデミックな世界に入りマレーシア工科大学のPh.D.プロジェクトを選び、多様化の国での新生活のスタートを報告しました。今回はそのプロジェクトの完了報告をさせていただきます。

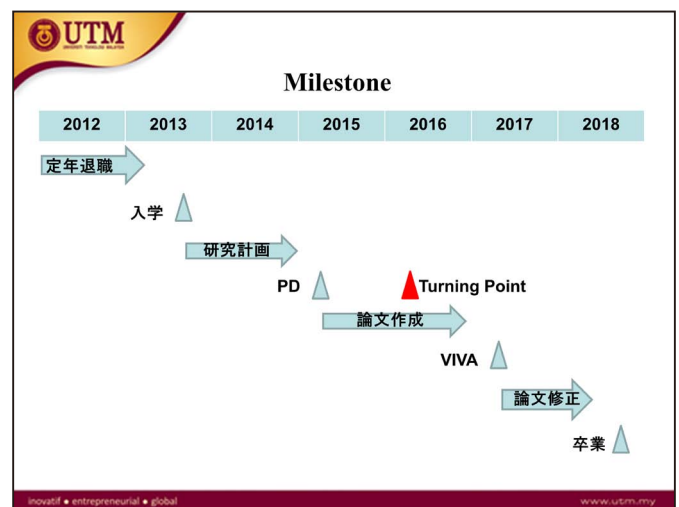
#### ■ 研究計画

このプロジェクトの期間は2013年から2018年の5年間であり、ガントチャートにおけるマイルストーンは図1のとおりです。プロジェクトの前半は、2013年10月に1か月遅れで新学期に入学してから2015年1月に終了したProposal Defense (PD) となります。PMI日本支部事務局の田中さんおよび、フロネシス研究会のメンバーのクアラルンプール来訪やPROMAC 2014 in KL国際会議での発表もこの期間にありました。

#### ■ 論文作成

PDでは、Ph.D.論文の1章Introduction、2章literature Review、3章Methodologyを書いて大学に提出し、PD試験(口頭試問)を受けます。このPDに合格してから本格的なデータ収集と分析を行うことになります。PD試験以降の2016年2月までの1年間はほとんど進展せず、研究が頓挫した時

図1 研究のマイルストーン



期でした。Turning Pointは2016年2月26日にやってきました。それは、大阪大学からMJITに来られた中西教授との議論から出ました。前任の副指導教官が任期満了で交代に着任された中西先生は、研究内容を議論してから今後「二つの国際会議で論文を発表する」という基本方針を私にアドバイスされました。

その方針とは、一本目の論文は2016年8月にUTM本校(ジョホールバル)で開催されるIGCESH 2016 (Komai, Saidi and Nakanishi, 2016b)、二本目は2016年11月にUTM-KLで開催されるICIM 2016 (Komai, Saidi and Nakanishi, 2016a)に絞り、中西先生との二人三脚で国際会議用の論文

## Best Practice and Competence/PM事例・知識

## ■私のブレイクスルー体験

を仕上げました。結論として、これらの二本の論文を核にPh.D.論文を2016年11月から3か月で仕上げ、2017年1月に大学に提出することができました。提出したPh.D.論文はDraftと呼ばれます。

## ■VIVAと論文修正

2013年10月から主指導教官として定期的に打合せをしてきたマレー人のHamdani教授との二人タッグで挑んだVIVA試験(口頭試問)は2017年4月20日でした。VIVA試験の試験官は、大学側が大学外部と内部から一名ずつ選別し、日程調整を重ねて試験日を通知してきます。

試験当日はVIVA試験用の部屋に午前9:30に集まり、議長と書記が中央に、Hamdani教授の向かいに試験官二名が座り全員の前で20分プレゼンをしました。その後、試験官からの質疑応答が1時間ほどありました。試験結果はC1(一年間の修正後二人の試験官に修正した論文を提出し承認を得る)でした。その日から2018年4月19日までの一年間はマイペースでケーススタディとデルファイ手法による2つの追加研究を行い、論文の約70%を書き直しました。今を思えば2016年8月に体調不良を感じ、パンタイ病院でカテーテル検査と心臓ステントを受け二週間後にIGCESHの発表、2017年8月に川越の自宅に帰国中に脳梗塞で緊急入院をした身体に一年間の機会を与えられたことは幸運だったと思います。この10月にマレーシアへ戻るときにセカンドオピニオンからは「この状態でマレーシアへ行くのは勧めない」と言われました。あと6か月先の締め切りとはいえ、元気な身体でも堪える研究を続けるのはかなりリスクがあったと思います。Hamdani教授のアドバイスがあり、診断書を添えて緊急の場合は1か月の遅延を了解して頂く、大学側との承諾のレターをサインしました。

## ■卒業

先ほどこの研究のTurning Pointについてお話しましたが、VIVAでC1を採点された真の原因は私の研究成果にありました。Ph.D.論文はIGCESHの論文;ITシステム開発における要件定義のCritical Success Factors(CSFs)と、ICIMの論文;ITシステム開発におけるAgileとWaterfall開発の工数計算の二つの成果をまとめたものでした。主指導教官のHamdani教授はIGCESHの成果が重要と考え、副指導教官の中西教授はICIMの研究成果が重要と意見を述べられました。VIVAの試験官からは、二本のMaster論文であるとのコメントも

ありました。このC1を採点されたPh.D.論文には、どちらかの成果をさらに高めてPh.D.論文に高める必要があったのです。そのために試験官が重要としたIGCESHの部分にケーススタディとデルファイ手法による2つの追加研究を行い、論文の約70%を書き直すという作業が必要だったのです。

最終の論文修正は2018年4月中旬に完了し、大学に提出しました。VIVAのときに分かったのですが、試験官のShamsul教授は、ITプロジェクトのCSFに関する論文を発表されていたので(Nasir and Sahibuddin, 2011a, 2011b)私の研究を後押ししてくれた結果になりました。この教授とはVIVA以降は3か月毎にマイルストーンを設けて、論文の修正について報告し、アドバイスをいただきました。結局、2018年8月6日に大学からPh.D.卒業のレターを貰いました。

## ●多文化・他民族国家生活体験について

ここまでは主にPh.D.研究プロジェクトを主にしてきましたが、2013年8月にKLにある日本人会(JCKL)を訪ねしマレーシア剣道部の有志に居合と杖道を教えることで合意しました。入学後の5年間は毎週日曜と木曜日に約20名の有志と稽古をしてきました。日本人会といいますが、日本人1名以外は中国系マレー人とイラン系のPh.D.学生たちでした。2014年秋からはKLにある日本大使館の後援を受けてMJITが開催するJapan dayで毎年秋に居合と杖道のデモンストレーションを実施してきました。現在、JCKLの居合・杖道のメンバーで、三段以下の資格者が16名を超えていて、毎年恒例のJCKL新年会の中核のデモンストレーションとなっています。彼らは私の地元埼玉県剣道連盟に所属していて、

図2



## ■私のブレイクスルー体験

春と秋の昇段審査受審のためマレーシアから来日しています。彼らの日本に対する意識は高く、例えば日本に来た時に二回も熊本まで旅行して宮本武蔵の霊巖洞にお参りに行った剣士もいます。

このような繋がりの中で、杖道を教えた中国系の政治コンサルタントがニューヨークで5年間大学に通ってMasterを二本持っていて、私のPD論文にコメントをくれ前半の研究に役立ちました。後半のVIVAから卒業に向けては、中国系とイラン人のPh.D.取得者が参考になる論文を見せてくれて必要なときにレビューをくれました。また、入学から3年目に専攻学科長からマハティール首相に乞われて政権アドバイザーに転身されたロズハン教授からは私の論文を個人的にレビューして修正のつらい時期に支えていただきました。このような多くの繋がり協力での研究プロジェクトを終了できました。

振り返れば、2013年3月に60歳の定年退職を迎えましたが、長年にわたり考えていた海外留学を決意するまでの40年は、ITプロジェクトの現場一筋で過ごしてきた、一言で表せばPractitioner（実践家）でした。その経験はあったもののアカデミックの世界は、新規性と有用性の研究成果を論文として発表することが求められます。在学中にはIEEE ICCSCE (Komai, Nakanishi and Saidi, 2017) へ、卒業後は、The Journal of Social Sciences Research (Komai, Rizky Prima Sakti and Saidi, 2019) へ論文を発表してきました。これからも、このプロジェクトの教訓を生かし実践家とアカデミックの分野、そしてマレーシアと日本の両国を架け渡すような活動をしていきたいと思っています。

## ● References

- Komai, S., Nakanishi, H. and Saidi, H. (2017) 'Guidelines for selecting Agile development method in system requirements definition', *IEEE ICCSCE 2017*.
- Komai, S., Rizky Prima Sakti and Saidi, H. (2019) 'Critical Success Factors of System Requirements Definition in IT System Development : An Industrial Case Study', *The Journal of Social Sciences Research*, (1) , pp. 190-206. doi: <https://doi.org/10.32861/jssr.spi1.191.206>.
- Komai, S., Saidi, H. and Nakanishi, H. (2016a) 'Man-Hour Comparison Between Two Methods Of Agile and Waterfall in IT System Development', *Web of Science indexed*.
- Komai, S., Saidi, H. and Nakanishi, H. (2016b) 'Study on Critical Success Factors Estimation in IT System Development', *Sains Humanika*, 9 (1-3) . doi: <http://dx.doi.org/10.11113/sh.v9n1-3.1139>.
- Nasir, M. H. N. and Sahibuddin, S. (2011a) 'Addressing a critical success factor for software projects: A multi-round delphi study of TSP', *International Journal of the Physical Sciences*, 6 (5) , pp. 1213-1232. doi: [10.5897/IJPS11.092](https://doi.org/10.5897/IJPS11.092).
- Nasir, M. H. N. and Sahibuddin, S. (2011b) 'Critical success factors for software projects : A comparative study', *Scientific Research and Essays*, 6 (10) , pp. 2174-2186. doi: [10.5897/SRE10.1171](https://doi.org/10.5897/SRE10.1171).

# PM Calendar / PMカレンダー

PMI日本支部のイベントならびにPM教育関連セミナーなどの案内です。  
 今般の新型コロナウイルス拡大防止の観点から、多くのセミナーは中止となっています。現在、リモート環境でのセミナー実施について鋭意検討中です。  
 詳しくは、PMI日本支部のWebサイトをご参照ください。

【ホームページにて公開中・準備中】

## ■ PMI日本支部関連セミナー/ワークショップ

### ● アジャイルプロジェクトマネジメント基礎

- 日時：4月8日(水) 9:30～18:00
- 場所：PMI日本支部セミナールーム
- 7PDU、ITC実践力ポイント7時間分

中止

### ● デザイン思考基礎

～優れた優れた顧客経験(CX)を提供する～

- 日時：4月16日(木) 9:30～18:00
- 場所：PMI日本支部セミナールーム
- 7PDU、ITC実践力ポイント7時間分

中止

### ● ディシプリンド・アジャイル基礎

- 日時：4月22日(水) 9:30～18:00
- 場所：PMI日本支部セミナールーム
- 7PDU、ITC実践力ポイント7時間分

中止

### ● デザイン思考実践(2日間)

～顧客経験(CX)からの革新商品&サービス開発～

- 日時：6月9日(火)・10日(水) 9:30～18:00
- 場所：PMI日本支部セミナールーム
- 14PDU、ITC実践力ポイント14時間分

### ● 中部ランチ主催 2020年 第一回セミナー

- 日時：4月8日(水) 19:00～21:00
- 場所：ウインクあいち 1204会議室
- 2PDU、ITC実践力ポイント2時間分

中止

### ● 学生のためのプロジェクトマネジメントワークショップ

- 日時：4月18日(土) 10:00～17:00
- 場所：名古屋工業大学 4号館1階110室

中止

### ● 2020年4月度 月例セミナー

- 日時：4月24日(金) 19:00～21:00
- 場所：AP虎ノ門 11階ルームA
- 2PDU、ITC実践力ポイント2時間分

実施方法  
検討中

## ■ PMI日本支部関連イベント

### ● PMI日本フォーラム 2020

- 日時：2020年7月4日(土)・5日(日)
- 場所：学術総合センター(神保町)
- 12PDU、ITC実践力ポイント12時間分

### ● PMI Japan Festa 2020

- 日時：2020年11月7日(土)・8日(日)
- 場所：慶應義塾大学 協生館藤原洋記念ホール
- 10PDU、ITC実践力ポイント10時間分

【月例セミナー開催について】 2020年度の月例セミナーは、下記の日程で全て虎ノ門にて行います。

【日程(予定)】	(2020年1月25日(土) 新春特別セミナー)
① 2020年2月20日(木)	④ 2020年5月22日(金)
② 2020年3月18日(水) 中止	⑤ 2020年6月26日(金)
③ 2020年4月24日(金) 実施方法検討中	⑥ 2020年8月28日(金)
	⑦ 2020年9月25日(金)
	⑧ 2020年12月16日(水)

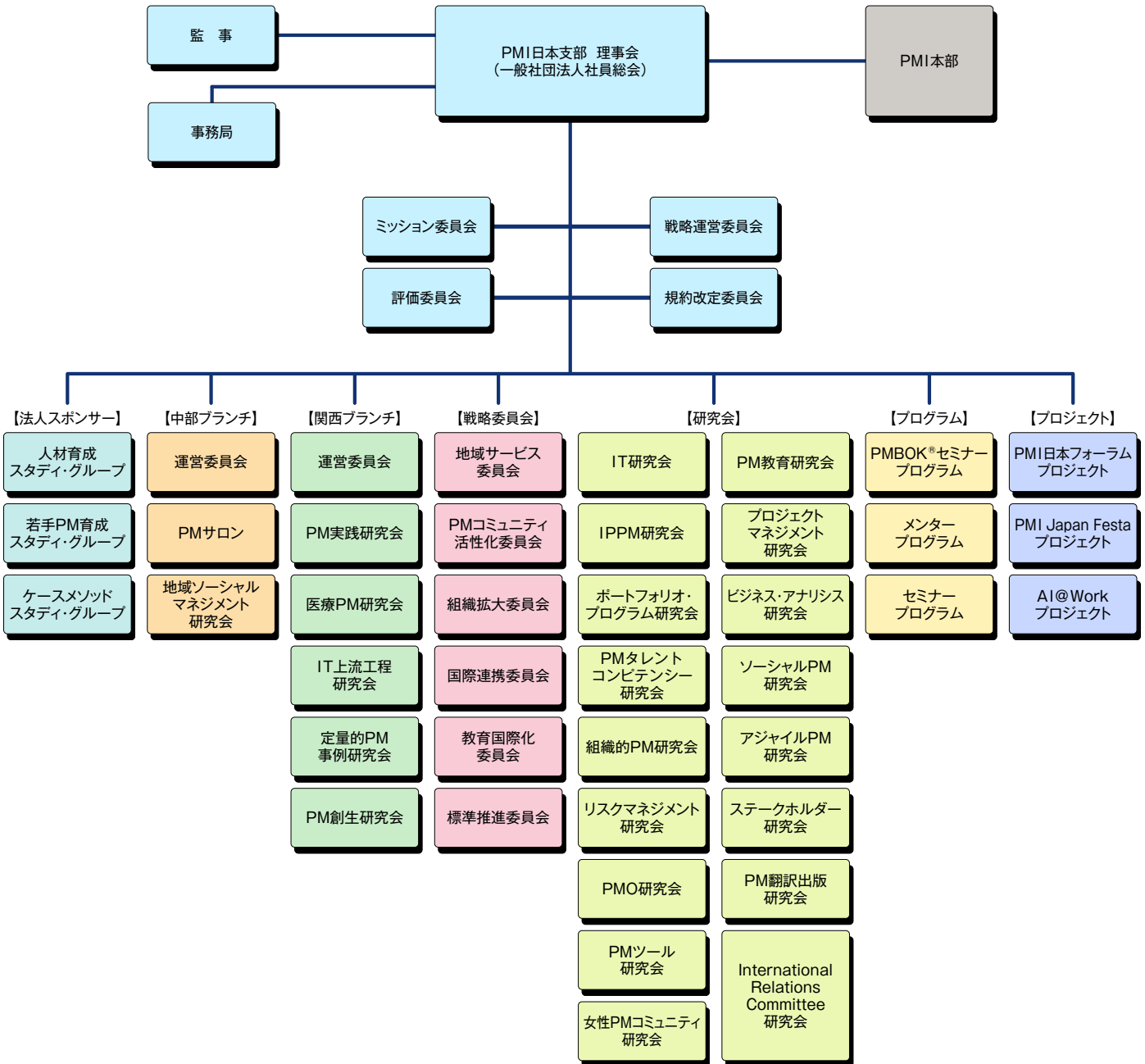
【場 所】	● AP虎ノ門 11階ルームA
	東京都港区西新橋1丁目6番15号 NS(日本酒蔵)虎ノ門ビル
	東京メトロ銀座線「虎ノ門駅」9番出口、都営三田線「内幸町駅」A4a出口から徒歩3分

\*なお、イベント、セミナー、コースなどは、諸般の事情により変更または中止される場合があります。  
 PMI日本支部ホームページで確認をお願いいたします。(https://www.pmi-japan.org/event/)

# Fact Database / データベース

PMI日本支部やPMP®資格取得者に関する最新情報をお届けします。

## ■ 支部活動 (2020年3月現在)



## ■理事一覧 (2020年3月現在)

会長	片江有利	株式会社システムコストマネジメント
副会長	浦田有佳里	TIS株式会社
副会長	奥澤 薫	KOLABO
副会長	斉藤 学	スカイライト コンサルティング株式会社
副会長	端山 毅	株式会社NTTデータ
副会長	福本 伸昭	株式会社JTB情報システム
副会長	森田 公至	日本アイ・ビー・エム株式会社

(以下、五十音順)

理事	麻生重樹	日本電気株式会社
理事	池田修一	株式会社ポジティブ・ラーニング
理事	伊藤 衡	小山工業高等専門学校専攻科 非常勤講師
理事	伊藤芳彦	株式会社三菱総合研究所
理事	井上雅裕	芝浦工業大学
理事	岩岡泰夫	株式会社国際開発センター
理事	金子啓一郎	三菱電機株式会社
理事	木南浩司	株式会社マネジメントソリューションズ
理事	富岡洋子	株式会社NTTデータユニバーシティ
理事	中村亜子	パーソルラーニング株式会社
理事	藤井新吾	モバイルコンピューティング推進コンソーシアム
理事	松本弘明	株式会社オプティム
理事	水井悦子	エンパワー・コンサルティング株式会社
理事	山本智子	川崎医療福祉大学
理事	除村健俊	芝浦工業大学
理事	米澤徹也	東洋エンジニアリング株式会社
理事	渡辺哲也	株式会社日立アカデミー
監事	島崎理一	OPTY合同会社
監事	山中良文	JFEシステムズ株式会社
監事	渡辺善子	株式会社日本政策金融公庫

## ■最新の会員・資格者情報 (2019年12月31日現在)

会員数		資格保有者数								
		PMP®		PMI-SP®	PMI-RMP®	PgMP®	PMI-ACP®	PfMP®	PMI-PBA®	CAPM®
PMI本部	日本支部	世界全体	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住
593,222人	5,062人	997,608人	38,191人	4人	10人	9人	94人	6人	12人	179人

## ■行政スポンサー (2020年3月現在)

- 三重県 桑名市
- 滋賀県 大津市

## ■法人スポンサー 一覧 (109社、順不同、2020年3月現在)

- TIS株式会社
- 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 株式会社NSD
- 株式会社インテック
- キヤノンITソリューションズ株式会社
- 日本電気株式会社
- アイアンドエルソフトウェア株式会社
- 株式会社NTTデータ
- プラネット株式会社
- 株式会社建設技術研究所
- 日本ユニカシステムズ株式会社
- 株式会社クレスコ
- ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
- 日本ビューレット・パッカード株式会社
- 株式会社アイ・ティー・ワン
- 株式会社タリアセンコンサルティング
- TDCソフト株式会社
- 株式会社大塚商会
- 日本プロセス株式会社
- 株式会社NTTデータ関西
- 日本ユニシス株式会社
- Kepner-Tregoe Japan, LLC.
- JBCC株式会社
- パーソルラーニング株式会社
- 日本アイ・ビー・エム・ビズインテック株式会社
- 株式会社アイテック
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
- 株式会社日立インフォメーションアカデミー
- 情報技術開発株式会社
- アイシンク株式会社
- 三菱総研DCS株式会社
- ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社
- 東芝テック株式会社
- 三菱スペース・ソフトウェア株式会社
- 株式会社三菱総合研究所
- NTTデータアイ株式会社
- 新日鉄住金ソリューションズ株式会社
- 株式会社日立ソリューションズ
- 日本自動化開発株式会社
- 日揮株式会社
- 株式会社野村総合研究所
- 株式会社アイ・ティ・イノベーション
- 株式会社JSOL
- ニッセイ情報テクノロジー株式会社
- 株式会社リコー
- 株式会社システム情報
- 住友電工情報システム株式会社
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
- 株式会社マネジメントソリューションズ
- NDIソリューションズ株式会社
- 株式会社日立製作所
- 株式会社システムインテグレータ
- 日本ビジネスシステムズ株式会社
- コベルコシステム株式会社
- 日本電子計算株式会社
- 富士電機株式会社
- 株式会社日立システムズ
- 株式会社神戸製鋼所
- クオリカ株式会社
- 株式会社エクサ
- 株式会社ラック
- 三菱電機株式会社
- TAC株式会社
- 日本情報通信株式会社
- 株式会社日立社会情報サービス
- 株式会社シグマクシス
- 株式会社TRADECREATE
- 株式会社日本ウィルテックソリューション
- システムスクエア株式会社
- 株式会社アイ・ラーニング
- 株式会社トヨタシステムズ
- 東芝インフォメーションシステムズ株式会社
- 株式会社ワコム
- NCS & A株式会社
- 日本システムウエア株式会社
- 日立物流ソフトウェア株式会社
- SCSK株式会社
- 株式会社東レシステムセンター
- ビジネステクノクラフツ株式会社
- 株式会社シティアスコム
- SOMPOシステムズ株式会社
- 株式会社エル・ティー・エス

## Fact Database/データベース

- 株式会社日立産業制御ソリューションズ
- MS & AD システムズ株式会社
- 日本クイント株式会社
- リコージャパン株式会社
- 株式会社アジャイルウェア
- ソフトバンク・テクノロジー株式会社
- 株式会社インテジテクノスフィア
- 株式会社ネクストスケープ
- セブンスカイズ株式会社
- 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
- 株式会社オーシャン・コンサルティング
- 株式会社リクルートテクノロジーズ
- アクシスインターナショナル株式会社
- JFEシステムズ株式会社
- アドソル日進株式会社
- キヤノン株式会社
- 東洋ビジネスエンジニアリング株式会社
- 富士ゼロックス株式会社
- 大日本印刷株式会社
- 株式会社ビジネスコンサルタント
- サイフォーマ株式会社
- 株式会社オプテージ
- 株式会社JTB 情報システム
- 株式会社NTT データ・ニューソン
- キーウェアソリューションズ株式会社
- ヤンマー情報システムサービス株式会社
- アフラック生命保険株式会社

## ■アカデミック・スポンサー 一覧 (49教育機関、登録順、2020年3月現在)

- 産業技術大学院大学
- 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
- サイバー大学
- 芝浦工業大学
- 金沢工業大学
- 九州大学大学院芸術工学府デザインストラテジー専攻
- 広島修道大学経済科学部
- 北海道大学 大学院情報科学研究科
- 山口大学大学院技術経営研究科
- 筑波大学大学院システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
- 早稲田大学 ビジネススクール
- 早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科
- 公立大学法人 広島市立大学 情報科学部
- 国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
- 大阪大学 大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
- 愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
- 国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
- 学校法人中部大学 経営情報学部
- 京都光華女子大学
- 鹿児島大学産学連携推進センター
- 中央大学 文学部社会情報学専攻
- 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
- 京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究支援センター
- 東京工科大学大学院 コンピュータサイエンス専攻
- 北海道情報大学
- 山口大学工学部知能情報工学科
- 川崎医療福祉大学医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科および大学院医療秘書学専攻
- 青山学院大学 国際マネジメント研究科
- 公立大学法人 公立ほこだて未来大学
- 慶應義塾大学・理工学部・管理工学科・飯島研究室
- 就実大学 経営学部
- 神戸女子大学 家政学部 家政学科
- 明石工業高等専門学校 建築学科 大塚研究室
- サレジオ工業高等専門学校 一般教育科 物理教育学研究室
- 北陸先端科学技術大学院大学 知識マネジメント領域
- 中京大学 情報センター
- 法政大学専門職大学院イノベーション・マネジメント研究科
- 札幌学院大学
- 国立研究開発法人 理化学研究所 多細胞システム形成研究センター
- 岡山大学 教育研究プロジェクト戦略本部 戦略プログラム支援ユニット (URA)
- 香川大学大学院 地域マネジメント研究科 中村研究室
- 明治大学 経営学部 鈴木研一研究室
- 中京大学 経営学部 齊藤毅研究室
- 独立行政法人国立高等専門学校機構舞鶴工業高等専門学校
- 愛媛大学 教育・学生支援機構学生支援センター 丸山智子研究室
- 東京都市大学 都市生活学部 国際開発プロジェクト研究室
- 江戸川大学 メディアコミュニケーション学部 情報文化学科
- 地方独立行政法人神戸市民病院機構 神戸市立神戸アイセンター病院 研究センター
- 中央大学 国際情報学部



# Editor's Note / 編集後記

執筆者の皆さまへ。お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございます。

- 2019年末に理事選挙が行われ、2020年度は片江有利新会長を含む、24人の理事と3人の監事による新体制が発足しました。今号では、新会長のほか新任理事8人のうち4人からのご挨拶を掲載しました。
- 日本支部はアジア太平洋地域のなかで、北東アジアの「Region 9」の一組織として位置づけられています。今回は、Region 9を担当するPMI職員3名をご紹介します。
- 2013年のニューズレター57号で、マレーシア工科大学のPh.D.プロジェクトに挑戦した駒田忍氏の手記を掲載させていただきました。それから6年を経た今、マレーシアでの出会い、奮闘、プロジェクトの完了報告を再び掲載させていただくこととなりました。

## ニューズレター編集担当から読者の皆様へお願い

新たな年が明け、日本支部も理事選挙を経て新体制が整い、新たな船出を飾った矢先に発生した新型コロナウイルス禍。2019年12月初旬に中国武漢での感染者報告から3ヶ月でWHOから遂にパンデミックが宣言され、社会・経済の急収縮との板挟みで世界中が経験したことのない未曾有の窮地に追い込まれています。

日本支部でも3月のセミナーを全て中止するとともに、部会会議もリモートで実施していただくことを徹底しています。今事務局では、各種リモートセミナーの開催に向けて鋭意準備を進めているところです。

何としてもこの災難を乗り越え、一日でも早い正常な日常活動を取り戻したいところです。皆さまもどうか十分に注意を払いながらお過ごしください。

PMI日本支部ニューズレター Vol.82 2020年3月発行

編集・発行：PMI日本支部 事務局

〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階

TEL：03-5847-7301 FAX：03-3664-9833

E-mail：info@pmi-japan.org

ホームページ：https://www.pmi-japan.org/

(非売品)